

市民が自ら活躍できる「場所」をつくる

商業施設として利用する際、施設内に公共の空間も設けて多様な人たちに対して訴求力のある場にし、同時に商業施設にも多くの人を呼び込みます。公民混在した施設にします。

実施する理由・背景 **地域からの要望の多い公共スペースを**

当敷地は、元々公共の場として機能していた元町小学校・元町公園であると同時に、現存する数少ない復興小学校で歴史的価値の高い空間です。弊団体が事前に行ったワークショップでは、当敷地を市民が自由に活用できる公共性のある空間に転用すべきだという声も多く挙げられています。この付近に地域活動センターがないことも公共スペースの必要性につながっています。

また、商業施設内に公共の空間が混在することで、多様な人たちを施設内に呼び込むことができ、商業施設自体の集客力も増大します。

具体的な内容 **有料貸しスペースで地域活動を支援します**

1フロアに1カ所、外部に1カ所ほどの公共価格の有料貸しスペースを設けます。お祭りやワークショップや講演会などのイベントに使えるようにします。利用者は団体登録をした地域のコミュニティ（NPO法人や民間団体など）。

実施体制 **コーディネーターと連携をとった事務局をつくらう**

スペースの受付を行う事務局の設置が必要です。後述の提案5のコーディネーター（組織）と連携をとりつつ実際に活用しながら適宜利用者のフィードバックをもとに運営体制を整えます。また、外部への効果的な広報を行うなどしてスペース利用率を高める方策を随時行い、外部の視点を取り入れて、適切な運営を保つために運営委員会を設けます。

公共スペースを計画する

多目的スペースや、音楽室、会議室など、特色ある用途の公共スペースとします。

3階：音響関連スペース
演奏やシアターとして利用できる設備を備えた空間とします

2階：多目的室

1階：会議室

運動場：イベント活用
マルシェや、フリーマーケット、運動イベントなどを行うことができる空間とします



■ 黄色：公共スペース

参考事例



マルヤガーデンズ

鹿児島県のデパート、マルヤガーデンズ。2010年リニューアルオープン時に、各階に、公共スペース「ガーデン」を設けて、市民活動を開催できるようにしたところ、デパート目的の顧客以外にもデパートに訪れるようになり、テナントへの客足も増加しました。

画像出典：http://www.studio-l.org/project/27_maruyagardens.html



オガールプラザ

産直マルシェ・カフェ・クリニック・学習塾などの民間テナントと、紫波町が運営する交流館・図書館・子育て応援センターで構成される「官民複合施設」。岩手県紫波町。

画像出典：<http://ogal-shiwa.com/information/category/place/plaza-place>
<http://toyokeizai.net/articles/-/56603?page=3>